

平成19年5月17日

## 「我が国に輸入される牛肉等に係る食品健康影響評価の実施について」 に関する意見交換会の概要

### 1 概要

食品安全委員会は、平成19年4月23日～27日、自らの判断で行うリスク評価（自ら評価）の案件候補となっている「我が国に輸入される牛肉等に係る食品健康影響評価」について、全国4カ所で関係者との意見交換会を実施した。

この意見交換会においては、プリオン専門調査会の専門委員から、自ら評価の実施に関するプリオン専門調査会の見解について講演を行った後、コーディネーターを野村食品安全委員会委員、プリオン専門調査会専門委員、消費者、生産者、輸入業者、外食産業関係者をパネリストとして、パネルディスカッションを行い、会場参加者と意見交換を行った。その結果、自ら評価の実施については、概ね肯定的な反応が得られたところである。

### 2 意見交換会のプログラム

- (1) 「我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価の実施に関するプリオン専門調査会の見解について」説明  
(食品安全委員会プリオン専門調査会専門委員)
- (2) パネルディスカッション
- (3) 会場との意見交換

日時	開催地	参加人数
4月23日(月)10:00～13:00	福岡県福岡市	62人
4月24日(火)13:00～16:00	大阪府大阪市	99人
4月25日(水)14:00～17:00	北海道札幌市	47人
4月27日(金)10:00～13:00	東京都千代田区	158人

(各会場の講演者・パネリスト等：別紙1参照)

### 3 意見交換会で出された主な意見等

(別紙2参照)

### 4 アンケートの結果

(別紙3参照)

## - 意見交換会における講演者・パネリスト等 -

コーディネーター：野村 一正 食品安全委員会委員（4会場とも）

開催地	講演者	パネルディスカッション
福岡	吉川 泰弘 （プリオン専門調査会 座長）	吉川 泰弘 甲斐 諭（プリオン専門調査会専門委員） 江口 瑞枝（北九州市消費者団体連絡会常任幹事） 藤木 眞也（全国農協青年組織協議会参与） 中井 尚（（社）日本フードサービス協会事務局長） 岩間 達夫（日本食肉輸出入協会専務理事）
大阪	山本 茂貴 （プリオン専門調査会 専門委員）	山本 茂貴（プリオン専門調査会専門委員） 飯田 秀男（全大阪消費者団体連絡会事務局長） 木村 善孝（肥育牛農家） 旦 有孝（（社）日本フードサービス協会食材 調達委員会委員） 井上 敏（日本食肉輸出入協会理事）
札幌	山本 茂貴 （プリオン専門調査会 専門委員）	山本 茂貴（プリオン専門調査会専門委員） 門平 睦代（プリオン専門調査会専門委員） 田村 千賀子（生活協同組合コープさっぽろ理事） 小倉 豊（（有）トヨニシファーム代表取締役） 多賀谷 保治（（社）日本フードサービス協会食材 調達委員会委員） 岩間 達夫（日本食肉輸出入協会専務理事）
東京	吉川 泰弘 （プリオン専門調査会 座長）	吉川 泰弘（プリオン専門調査会座長） 和田 正江（主婦連合会参与） 下山 好夫（下山畜産株式会社取締役会長） 加藤 一隆（（社）日本フードサービス協会専務 理事） 田所 裕滋（日本食肉輸出入協会副会長）

## < 意見交換会で寄せられた主な意見 >

### 自ら評価の必要性

- ・自ら評価は、輸入牛肉等の購入時の安全性を判断する材料として、また、消費者から不安の声が上がっている背景を踏まえ、ぜひ実施すべきとの意見が大勢。
- ・安全であることを前提に輸入されているものについて敢えて評価を行いリスクに濃淡をつけることの意義や、情報量が不足している中で、適切な評価が行えるかについて、疑問視する声が若干あり。

### リスク評価の進め方

- ・国産牛肉や米国・カナダ産牛肉とのリスクを比較して評価を行ってほしい。
- ・輸入実績のある国のみでなく、評価手法を詳細に決定した上で、新規の輸入国にも対応してほしい。
- ・出来るだけ定量的な評価を行ってほしい。
- ・評価にあたっては、情報の入手方法や入手先等を公表する必要がある。
- ・データが集まらない場合の評価の進め方についてどのように考えているか。
- ・情報が十分でない国については、最悪のシナリオを取ることが適切なのか。
- ・収集した情報の信頼性について、どのように担保していくのか。
- ・輸出国と十分協議を行うべき。
- ・リスク管理機関と十分なコミュニケーションを行って評価を実施してほしい。
- ・評価はスピーディに進めてほしい。時間がかかりすぎるのは問題である。

### 評価に必要な調査項目

- ・牛肉調製品・加工品についても検討してほしい。
- ・月齢制限、SRM 除去、指定工場等、具体的な輸入条件は勘案し評価していくのか。
- ・各国における管理措置等に係る違反事例の情報も考慮すべきである。
- ・現地調査を行い、実際の管理等について調べるべきである。
- ・輸出国の管理措置の遵守体制をきちんと調べてほしい。
- ・SRM の定義は、各国で異なるので、定義を調べるべきである。
- ・SRM の除去が適正に行われることを評価してほしい。
- ・BSE 感染牛や牛肉調製品が、BSE 未発生国経由で輸入されている懸念がある。
- ・米国・カナダ産牛肉等の評価の経験を踏まえるべき。と畜場における生体牛の検査時間等、一部の項目は科学的でない。

### その他考慮すべき事項

#### リスクコミュニケーションの推進

- ・今回のような、自ら評価の実施前のリスクコミュニケーションは大切である。
- ・審議の途中経過を報告してほしい。
- ・リスクコミュニケーションに、より多くの方が参加しやすいよう、開催案内の幅広い周知及び平日以外の開催等、工夫してほしい。
- ・リスクコミュニケーションの内容について、より分かりやすい表現で伝えてほしい。

## **国際基準との整合性**

- ・ OIE ステータスと自ら評価結果の整合性についてどのように考えているのか。
- ・ リスク評価に当たっては、OIE 等の国際基準との整合性をはかるべき。
- ・ 国際基準に妥協するのではなく、国際基準を考慮しつつも、日本独自の評価を行うべき。

## **評価の優先順位**

- ・ 評価の優先順位について、委員会としての考えをまず示すべき。
- ・ リスクが高いと思われる国（GBR の国や、GBR 又は OIE の評価を受けていない国等）から評価すべき。
- ・ 牛肉調製品の輸出量の多い国から評価すべき。
- ・ 輸入量の多い国から評価すべき。
- ・ 輸入量の多少に関わらず、一律に評価をはじめべき。

## **その他**

- ・ 自ら評価を行うことを決定するまでに時間がかかりすぎである。
- ・ 一定期間が経過した際は、その都度評価の見直しをすべき。
- ・ 自ら評価の結果は、リスク管理機関にどのように反映されるのか。

その他、米国産牛肉の再評価を求める意見や、米国産牛肉の管理体制、国産牛肉に関する管理措置についての意見等があった。